

調査ニーズ、状況再認にどこまで検索、コンテンツの信頼をするか： コンテンツ評価、制作

Content Evaluation and Making Media Content—From Content Assessment in viewing knowledge of Systems Thinking and Psychology to Media Content—

糸魚川幸宏（ウィズダム・インク）

要旨：

調査をするということはインターネット時代の前からあった。インターネット利用と検索後のコンテンツと現実で distrust が生まれたと認知、その中でのコンテンツ制作、発信について考察した。

1.はじめに

私は文学部の心理学科を出た者であるが情報処理学会の春秋あった全国大会に1992年9月より論文発表で参加し徳島、鳥取、富山、札幌、福岡、盛岡、松山、山口、と大学のある所に行きhtmlで発信をした。写真、デジタル作品がコンテンツで利用された。Distrustな状況がインターネットに起きたと判断、発信型のhtmlの削除更新を行なう過程でhtmlを評価、新たな制作を考察した。

2.調査をしたもの

2.1 調査事例

インターネットの利用で調査する、ものを書く時の裏づけが大きな変化を受けた。キーワードを検索エンジンに入れ出てくるもので調査要件の情報をhtml、ppt、pdf、doc等のコンテンツで知ることができる。論文等の文章を書く時に正式な人名、地名、年月日等を知りたい時にインターネットでの検索を利用し事実関係を知り文章を書いていた。ここでインターネットによる情報収集に不審、不信をいだく状況が発生した。この状況で本論文はインターネット利用以前の調査について調査の必要性の発生、その時の

調査方法から調査の型、モデルというものを事例を基に構成した。インターネットの利用ができる現在と調査の必要性発生の事例を比較として型、モデルで同じ群として考察した。この調査群は歴史調査、小説調査の人文科学の分野で発生し偶然、調査の必要性が現実に確認する場所として金沢が場所となった。本論文を金沢工業大学でのGN研究会で発表する動機はそこにある。

2.2 調査の仕方 表1の①~④について

①水戸の知人に手紙で武田耕雲斎について確認した。水戸の彰考館、筑波史跡等に行き水戸天狗党の行軍ルートを歩いた。水戸天狗党に関する著作が相次ぎ小説「天狗争乱」が出た。天狗党の時の手紙については今も見えていない。銭屋五兵衛の話をした小林昇（東洋哲学、日本橋海鮮問屋生まれ）は見てみたいと言いつつ「中山義秀君なら水戸天狗党始末記かな」と付け加えた。

②手元に金沢の観光案内があり徳田秋声記念館があるのを知り検索で記念館を見た。図書館で「徳田秋声」を読んで藤村のこと、戸川秋骨のことが書いてあるのを知り戸川残花は戸川秋骨のことでないかと孫に確認を思う。人名検索では秋骨、残花は違うようだ。金沢の徳田秋声記念館で記述一覧を探したいと思う。「徳田秋声」に水戸天狗党の時の手紙の保管が金沢にあると書いてある。それと調査のものとの違いも知りたい。

③漫画そのものを探すことよりも現実に名古屋に来る外人と接触し長期間で外人の名古屋弁への反応を知ることを思う。名古屋場

調査対象	調査の必要性発生場所	発信	関係からの切り口
①水戸天狗党関係資料	能登門前	天狗党の時の手紙が金沢にある	水戸天狗党の行軍ルートを歩く
②徳田秋声記述の藤村、残花	東京	戸川残花の孫のエッセイの話	図書館、徳田秋声記念館での調査
③漫画、名古屋弁に苦勞の外人	名古屋研究へのデータ	東北大卒の名古屋観として記述	相撲見物での名古屋弁と外人の観察
④漫画 目隠しして計量の女性	英 chat で発見	学会査読へのヒューモア？告発	漫画にあるブランドの調査

表1：調査の必要性の発生の事例

所の相撲ではフランス、南アフリカ等近くの席で外人に会う。ここは東北からの名古屋への見方、反応をみることに調査を定める。名古屋市役所からの被災地への人員派遣での現実を河村たかし市長の名古屋側から把握することにする。

④Interact の案内ホームページ（以下 HP と略す）から行ける chat にあった漫画 1 枚は査読の状況について説明しているように思った。Amsterdam で Wiley, Washington で Washington Post と漫画に入っていたブランドを確認した。

2.3 直ちに検索しない状況

インターネット利用での不審、不信でのメール、コンテンツへの評価が出てきているが②の徳田秋声の調査ですぐ人名検索で検索エンジンを使わない理由の生起は検索結果への他の人の気づきを聞いて、現在の状況でさらに検索を抑制することになった。

検索コンテンツ不信の事例、國藤進、検索でウィキペディアを見たが記述が事実関係で逆になっていた。見方として KJ 法の川喜多二郎の大学から出て洋上大学で学生を教えた時期は大学紛争の時期であり事実記述の誤りに直結することでないが今に個人攻撃が残る理由と思う。ウィキペディアについては他にも歴史的事実の記述で他の記述との比較において違いを書いている事例を読んだ。

2.4 調査ということの記憶

表 1 ①水戸天狗党は後の将軍徳川慶喜を頼り京都に向かうが果たせず犬山鷲沼で北陸に向かう道を取り加賀藩に投降し敦賀で処刑される。人の再認にこの調査が影を落とすことがある。金沢大学卒の人で名古屋で教職の人がいた。二三次会い、一度は車で横浜の私の通勤途上で見たことがある。この記憶のみで教授を水戸天狗党関係と思う想起が働く。表 1 ④chat は英語の文章のもので発信元はイギリス、漫画は Washington Post のブランドがはいっていた。Washington Post に行くビルを受付でなく横合いのドアがあきタバコを吸うための男性が出てきた。漫画の有効性をいい、作者に礼をいった。時間が経つと(2001年6月-2013年9月)会った人が作者だったと思う感情が出る。②徳田秋声、③名古屋で言葉に苦勞する外人の漫画による東北大卒の名古屋観、この調査でも想像に近い現実感覚が出てくる。その感覚は html 発信コンテンツ作成で創造を促進させる。

3. コンテンツ制作ニーズ

3.1 状況について、複合した要素のある調査への思いつき

html 発信、商用取引で起きたこと

①インターネット利用の良さが意識されにくくなり被害を体験するのは Web メールが無断ダウンロード(盗難) ホームページ発信における FTP ソフトウェアからの侵入、他人による html 更新の被害、それにともなう html 発信停止期間の発生、Google 検索における被害発生可能性表示の損害(実際は html はロードされていない) が起きた。被害はプロバイダーに不信発生と拡がる。

②商用取引口座での「任意決済」による被害、その事態は法テラスにおける Hacking の認定とインターネット不信は列挙されてくる。こうした状況をシステム思考、Systems Thinking で論ずることも行ない、1977年(昭和52年)頃と2008年(平成20年)頃は似てる状況と判断した。大きな人員異動のあった減量経営期(1977年)とリーマン倒産による金融パニックの時期(2008年)に幾つかの共通点を見いだすが、大きな共通点は同様な人の動きと電話の記憶ということである。浜田幸一という政治家はとばくで話題になり大平正芳死去で涙を流す場面がテレビのニュースに流れた(1980年)。金融パニックの状況で関係する会社の担保に入れた株を無断で売り代替担保を入れないので逮捕された。高齢でその後2012年死去した。通信が電話、メールのみによるもので対人が具体的に相手の顔を見るものでなく、「任意決済」がネット証券で行なわれ被害が出れば担保株売りであれば浜田幸一の事件を参考にできる情報を得られると思っていた。浜田幸一逮捕まで5年の歳月がかかっている。2013年9月リーマンショックから丸5年が経つ。事態、事件に共通性をみるやり方で5年という時間経過が共通の尺度に見える。通信のコミュニケーション、派遣労働の多いと想定できるネット証券の職場、経営する親会社の銀行の動き、巨大化したシステムはブラックボックスとして中の命令系統、人の配置は分からない。みずほ証券の誤発注損害発生事件での二審ではみずほ証券の要員教育、指導に問題ありと事件の3割の責任を問うた。これに対しみずほ証券は誤発注に気づき発注取り消しをしたが取り消し作業をしなかったことに原因と反論した。

電話を再認：商用取引での事件発生後の通信をみると電話が証券会社、クレジット会社からきた記憶がありメールでの質疑では紋切り型の返信とコンプライアンスによる説明義務を放棄した強圧的言い方のメールが再認される。このことはみずほ証券の誤発注発生後の動きでの通信について事実を知りたい感情を生む。似た状況と捉えた昭和52年減量経営の記憶に企業内教育を担当していた私への経理部長からの電話による事実確認が想起されてきて状況把握に電話の発生をみることに意識された。

不明事態把握のための検索

①検索への提供コンテンツ収集のための刺激作り：こうした時に昭和 52 年前に電話で注意をした女性のことを思い出した。女性は自分のしている仕事で電話する相手の管理職が席にいないことを言った。この注意、教えの意味を当時の動きを再現することで現在につながる状況把握にしたいと考えた。女性は若き日に出版社にいて大家の小説家の所へ原稿取りに言っていたと二人でしていたビジネスンスクールの男性同僚が言っていた。状況からすぐ人名検索はしない。検索を積み重ねていっても例えば原稿取りに行っていた小説家が誰かにたどりつけるものではない。

②コンテンツ発生への html 作りと発信：検索の前に反応が得られるコンテンツを作り発信をすることが考えられる。「調査をしたもの」における水戸天狗党の調査のように調べているうちに本が何冊か出てくることもある。Bumped なものとして chat で得られた漫画の信憑性確認も同様に起こりうる。また同僚男性の属人要素学生時代に中山伊知郎にならつたという言葉から検索を積み重ねていくこともできる。ここで問題が出てくる。その人の家族への接触等が起きること、またふれなくても調査に説明が求められることである。有名人の伝記作りにおける関係者の了承に似たことである。わずかな言葉の情報の中で一度食事した神田「藪そば」のことも火事の発生の時に思い出された。二人が常連であればその後の消息を知っている可能性もある。火事で記憶されるのは修善寺の「金龍」がある。明治時代に尾崎紅葉が宿にした旅館である。同時代の徳田秋声の調査と重なる部分が出る。こうしたことが昭和 52 年頃にビジネスンスクールをしていた宮井和子という女性のことへの調査の設定である。不信が出ている検索、コンテンツについてマイナス評価より新しい検索、コンテンツ利用の道を考えるものである。

③HP 発信で好きな読書の記録とかスポーツ観戦とかの個人発信が増えた。人生の記録が調査、事態把握のためのコンテンツ作りという作業の重なりで徳田秋声研究野口富士男のいう「手間暇かけて、長い時間かけてさがしもとめよう」という伝記執筆の態度につながる作業で生まれてくることになり自己発信 html が更新充実化される。

3.2 方策 発信コンテンツ制作の考察

①昭和 52 年当時の通信会話は電話のみで平成 20 年の場合は電話と他にメールが補充でつく。発信コンテンツの媒体、インターネット・コンテンツはどの体裁を選ぶべきかという判断は、国会議

員選挙のような厳しい判断状況でみると YouTube は撮影のレベル、候補者の発言内容から YouTube は効果的かという判断となる。現在の時点で昭和 52 年状況を知るために「複合した要素のある調査への思いつき」の要素を写真を交えパワーポイントのスライドショーにすることがよいと考えた。小説家の名が構成をなす。

②コンテンツ素材入手先評価：岩手マルチメディア協会の ML に入ることによってメールによる情報、メール発信者の個人情報 html で知ることによって html の素材、学会発表におけるイメージにできたものが多い。東日本大地震の発生でフランスで宮沢賢治が評価された時にそのコンテンツを載せた html のイメージ素材のみでなく海外で理解される言葉（英仏語）での発信がなく html は事態変化に対応し更新充実させ発信し反応を得る可能性への対処を考えた。

4. コンテンツ評価、更新 発展充実

4.1 モビリティとコンテンツ、発信

①新潟について横浜市在住の時に東京ドームで新潟県の産物、商工の製品の祭りが知り合いができた。新潟県加茂市は情報処理学会の研究会で論文を発表された方が事業をされていて町と商売、コンピュータ利用についての目的で調査で行った。こうしたモビリティで得られることは加茂市の古本屋で作家豊田穰のエッセイを買えたり新潟市の画廊で大阪で購入した黒木棟朝の作品を見たりすることでインターネット、ネットサーフからの bumped な収穫と同じである。

②情報処理学会全国大会が秋にあった頃に徳島大学等行ったが、岩手県立大学、山口大学等の大会では参加記録を html で作り発信し今も更新されている。岩手の場合、マルチメディア研究会がありメーリングリストに入り東京発信の情報と同じ有効性のあるコンテンツが得られた。宮沢賢治発信 html を利用した。岩手県立大学にある芸術的モニュメントも写真に撮りコンテンツに活用した

③モビリティについては旅行記への発展を考えている。旅行における出会いの人の写真と記憶、感情のアンケート情報を合わせた html があり都市の記憶について建築学的に考察した論文が東海の建築学会で発信され pdf でインターネットのコンテンツになっている。新潟県から富山県への移動の地理について実際の感覚を持ったのは海音寺潮五郎の「天と地」を読んだ時である。メディアの記憶で「天と地」があるが実際に小説を読んだのは 20 年以上経ってからである。HP 発信に時間差的発信 (delayed) があるが人

の記憶と html が検索される時期を考慮するとリアルタイムでなくとも html は発信効果の役割を果たしている。

4.2 状況把握 平成4年 25年状況について

A. 裏日本について気づかれたことを上げる

- ①裏日本へ行くことが少ない、学会開催が少ない。
- ②裏日本の人との接触、作成していたコンテンツについて、データ提供のある会った人への発信 HP はある。加茂市宛 html 等。
- ③自然、故郷回帰の人でわずらわしさを感じさせる発信は継続していない。新潟、富山に同じように感じる。

B. 残ったコンテンツ、html

- ①新潟：いもかわゆう（新潟県出身）制作イラストの活用、横浜波留選手、貴乃花に感銘のスポーツ記述 html (長岡在住者)。
- ②富山の素材での発信：県立美術館にある屋外芸術作品をデジタルなコンテンツ作りでコラージュし年賀状に使った。
- ③東海の方法：私の出身の岐阜県、在住の愛知県から発信したデジタルコンテンツは「関ヶ原の合戦」、徳川美術館 HP が海外への発信で再認される。コンテンツで何を選ぶかは大事なことでドイツの Leipzig 大学で Bach のアーカイブを作っていた教授の「関ヶ原の合戦」を見た時の一種の当惑を思い出す。武具の近代戦争の鉄兜を思わせるものがあつたこと等がその理由である。
名古屋の文化コンテンツについては市内白壁にある「文化の家」、川上貞奴の記念館について制作することができる。一番現在に近い人物の NHK 大河ドラマの主人公が貞奴で幕末動乱の中で日本橋の破産した両替商の娘という検索結果から木曾路に入れば貞奴に会った人が生存していることもコンテンツ制作での情報になる。記念館に城山三郎の展示もあり義弟の「城山三郎のもてなし」講演のデジタル記録化の吟味も出るがプライバシーの内容もある。

C. 制作ニーズの発生していたもの

①新潟コンテンツ打診がされていた。岡山、静岡、北海道、松本の発信コンテンツがある中で新潟出身で東京にいる人と話をした。コンテンツに用いられたものは岡山、国吉康雄、柴田練三郎、社会心理学者の写真、論考、静岡、県立美術館案内ポスター、室賀三郎の会の記述と静岡大学での学会開催における記録の記述である。北海道、松本に関しては文章記述による html で発信更新は少ない。この過程で人の意見を聞くことが発生した。

②コラボレーションの単位毎に html、pdf を設置することで意見を聞く人が新潟コンテンツ、富山大学全国大会コンテンツ、金沢コンテンツ、福井コンテンツとカテゴリーされ電子掲示板利用、旅行記の pdf 装丁、html 更新ソフトウェア FTP の活用性、信頼性、商業的にはマイクロソフトの Windows XP からの更新という利用者の消費者的感覚のデータも必要になる。

この時点で本論文 pdf 発信を将来的にコラボレーション素材の発信にしておくことを考えた

新潟県が南米3国と同じ制作ニーズの発生の表に入った、調査ということで出た金沢、石川県に関するコンテンツ作りの発生と異なる。Cognition としては裏日本での学会開催は少なく参加も鳥取、島根のみである。新潟、石川には他県と比べよく行っている。県と都市の関係で宮城と書かず仙台、石川と書かず金沢と書くことは旧制高校があつたということなどに起因すると考える。南米3国については強いコンテンツ制作ニーズは長く意識されているが実際には小さなコンテンツが Brazil、Uruguay に発信されているだけである。

Note:

発信された質問は盛岡、仙台に在住でマルチメディア、情報処理の分野での実践、研究活動の方になされた。

表2のエピソードの人物はスライドショー等のコンテンツによりインターネットから発信し広く反応を得る事例と考える。

対象	必要性認知	既成 html	エピソード 付加コンテンツ
新潟	裏日本のコンテンツが少ない	いもかわゆうイラスト	長瀬智也イラスト購入 静岡糸魚川での地震考察
Brazil	五輪あり、日系人多い	PDF でメモ発信、被検索	学会での朗読、OHP 使用への感性処理、町と踊り
Uruguay	知人あり なでしこの発信	検索よりコンテンツ・英語	モンテビデオへ行った人の記録、サッカー、W cup
Venezuela	名古屋で Venezuela 人講演あり	英語検索するも文化無理解	キーワード検索より「隣人」へ、アテルイ像

表2：制作ニーズの発生 地域、コンテンツ

5. 金沢市訪問での発信コンテンツ作り～、福井に渡る

5.1 金沢、北陸：掲示板の記憶と人の再認

①能登へのモビリティは水戸天狗党に関する手紙、山岡鉄舟の書等の幕末史料のアーカイブを想起させる。デジタル化された史料の記憶は京都大学の長州藩奇兵隊の記録保存位である。人の認知は戦略的取り込みで記憶というものは博覧強記の型でないと思う。

②金沢大学で教職の方が金沢におられた間に電子掲示板で学生と連絡されていて私も時に書き込み利用した。こうした電子掲示板は振り返れば本論文の調査目的について要約したコンテンツ、イラスト、漫画等を制作し書き込みに添付し金沢にいる人に呼びかけておけば反応が得られて調査の成果が上がったと思われる。

③研究者の異動について注目しユビキタスな状況で考察したのは温暖化、CO2 削減問題で世界の議論、会議が名古屋で行なわれた2009年であった。2011年3月11日発生の東日本大地震後の日本、世界の状況分析に研究者の存在を human factor として問題解決 solution との関係で捉えた。問題解決学は企業における経営科学、オペレーションリサーチとコンピュータのソフトウェアの応用の時代から活用が注目されていた。1970年頃の問題解決学の研究者はユビキタスな状況考察の human factor として認知し経営科学を専門業務、研究としていた人を10人以上の群としてまとめた。

④問題解決学の一つに大学紛争が起きた時に東京工業大学から出て洋上大学を作った川喜多二郎のKJ法があり状況、記憶からカードにメモを記録し整理過程を経て問題把握、解決策提示がある。このユビキタス状況で再認められた研究者は北陸の生まれ(七尾市)北陸の大学に勤務という石川県に縁のある人であった。石川県への旅行、調査という直接性がなくなったこの10年でのナレッジサイエンスの研究者はその著作、発信 HP で知ることができた。

⑤他にこの分野では海外での活動で女性研究者がアメリカ、インドで認知できた。認知にともなうメール交信でインドとの関係で HP が更新された。アメリカ研究者のステレオタイプの講演風景の HP にインド女性心理学者の児童虐待の講演原稿が組み込まれ事態を見ることへのコンテンツとなった。こうしたことでボーダレスに発信されていた HP が特定の研究者に絞り込まれ発信されることに変化をみせた。アメリカの女性研究者は学生時代に英文、数学をした人で金沢等の文化コンテンツが html で制作された時には交流コンテンツとして活用できる。

⑥ナレッジサイエンスの北陸関連で認知された研究者二人は当時の政治状況、出身県が山口県であるということで日本共産党の宮本顕治を話題に出した人であった。このことは福井をみると「甲乙丙丁」を書いた中野重治を想起させ講演会で同県人の小説家として話題にだした水上勉を思い出させる。キーワード検索でなく本人記述からの状況把握は記憶の中に県単位で人名を出してくる。

⑦デジタルのアート作品で岩手で幽玄を感じさせるものがあった。平泉中尊寺には能舞台がある。義経の史跡が幾つかある。幽玄という芸術感覚から義経の時代に入り能登、石川にある史跡と言い伝えについて岩手石川に共有性のあるコンテンツを制作することもできる。義経は鞍馬山にも石碑がある。そうしたコンテンツは観光ガイドになり外人が喜ぶことになる。南米で水沢市のアテルイのデジタルアート等どうみられるかという吟味調査も出てくる。

5.2 福井：「状況について、複合した要素のある調査」

①福井の教育、その期間は旧制高校で金沢に四高ができた頃迄で東大等への進学での考え方について調べを感じた。その動機は心理学の先生で福井の人がいて進学、東大での gestalt 質疑の思い出談、教育学部に教授としての教育での「形作る」という考え等から現在に至る心理学の学会での影響について検証したいと考えた。福井の情報は図書館にある心理学者事典のコンテンツによる。人名検索では HP がその心理学者の死後であっても見られる。

②名古屋から福井にバス旅行すると能登で水戸天狗党の史料の調査を思った時にも海辺で見た三好達治の歌碑を見る。三好達治の歌に感銘し図書館で詩集を読む。三好達治の歌碑のある場所のデータベースを作ろうと思う。三好達治の戦争観が①の福井の教育についての調査と重なると思われる。

③心理学の宗教心理学の分野で著書を出した人がいた。仏教の永平寺について建築、文化さらに教育への影響で調査をしたいと考えた。ここまで新潟、富山、石川、福井と HP 発信の観点から発信と交流を確認、偶然の調査の発生から、検索とコンテンツの関係で調査の必要性が生じた。検索、HP コンテンツに不信がある中でコンテンツ制作ニーズにおける distrust な状況をモデルにした。コンテンツの制作は学会発表で発生する。口頭発表の場合、オーバーヘッド・プロジェクター、パソコンのパワーポイント、ハンドアウトによる説明とあり、ポスター発表もある。パワーポイントの場合、スライドで説明をシナリオで作り必要がある。表、写真の活用もされる。

④**Positive なシナリオ化**：秋は学会のシーズンであるから心理学の学会での発表のスライドを制作するため会社の職場での心理学の positive な推進で協力した人の関係で Psychological Principle の本から現在に至る Computer Interface の流れをシナリオ化し始めた。ここで「錯視」という表現で東海心理学会の論文の中で事例記述し発表で「錯視」研究者の質疑を受けたことが思い出される。Positive な協力者に勘違いのあったことを再び思い出し、事例とした職場の事例以外に当時の関連で職場の人の言葉に介入者の存在を感じたことを説明スライドに入れた。検索の実際でいえば心理学者の人名、錯視のキーワードの組み合わせで福井出身の心理学者の人名が入った錯視の研究が出てくる。

⑤**新潟、富山、石川、福井の流れ**でコンテンツ・ニーズを確認、心理学のコンテンツ作りから福井の教育につき調査の関心を新たにする。心理学推進協力の人につき学会での質疑、pdf コンテンツ、html (Education) で認識を他者に再認で求めることができる。職場のコンテンツ作りは企業小説の時代の記述から html コンテンツでの本人記述から問題認知の過程への対話型のインターネットの特徴が negative から positive に活用できる。東日本大震災の発生で仙台への転勤者を想起、列挙した。仙台の状況の把握のためである。福井についても大学勤務の人は二人思い出される。そうした事例で event 研究でこのテーマに迫ることができる。この記述がスライドショーのシナリオに活用できる局面となる。

6. distrust な状況モデルから制作

6.1 コンテンツ評価からの展望 表3に示す

6.2 コンテンツ制作における想定

①ところで最近の考え方に見えない所の組立の再認からの推理を越えた歴史的事実の確定が研究者によりされる。JFK に関する Kevin Costner 主演の「JFK」での検事論告、「ダラスの熱い日」での犯人の想定、想定による暗殺命令の電話の場面である。熱心な研究者はこの想定を信じ暗殺犯人オズワルドを否定する。今回、スライドショーを目的に合う方法として取り一枚一枚のスライドを作る場合、この想定が出てくる。検索で過去の事態についてキーワードの組み合わせですることは本論文で設定してるテーマ 3.1 「状況について、複合した要素のある調査への思いつき」、5.2 福井：再び、二つ目の「状況について、複合した要素のある調査」への思いつき、には無理な難題と思われるがスライドに落とす場合、二つに共通なものとして電話での交流に想定ができる場面が

ある。一つは宮井和子の電話への応答、不在の理由の把握であり、もう一つの事例では朝日新聞にヴェーバー フェヒナーの法則が学術語で説明掲載された時の福井出身の心理学者の朝日新聞学芸部長の対応である。その時旧制高校の卒業が二人の結ぶつきとして心理学者から言われているからである。2008 年 10 月に金融パニックの発生において商用取引での電話の会話が記憶として同様に残る。貸出規制をしたクレジットカードでは発信印鑑のない規制実施による cashing ゼロの通告と質疑の電話記録が残る。

②**関連性**：電話よりメールの多用に現実が変化しているかどうかの確認があるが、数学的な考えとして群論が企業の理工系の人間に基礎数学で教えられたのは昭和 46 年 (1971 年) の頃で学校教育での変化の時であった。調査の必要性発生群ということでは表 1 からの考察は時間の経過での 4 つの事例の関連性が発生してくる。能登で聞いた水戸天狗党の資料は金沢にあると聞いたが「徳田秋声」にある金沢に保管されているという水戸天狗党の資料と同じかという思いである。それと戸川残花、島崎藤村がどう関係するかで水戸天狗党が「夜明け前」の木曾路中山道に清内路から入っているのも史実である。妻籠で水戸から嫁入りした大隈重信の門下五来欣造の娘に会い水戸で天狗党に追われ逃げた家の人の話を子供頃に聞いたと聞いた。

③名古屋弁と外人の苦勞のことは名古屋弁の市長河村たかしの国際性ということで生物多様化条約の国際会議のあった時の Local Government 席に座る河村市長、愛知県知事の表情から基本的なところから海外交流を見る調査になる。Chat で得た漫画は IEEE における採録論文の査読の問題にと調査範囲が広がる。表 2 についてはエピソードにある事柄から人物主役のスライドショーを作ることが考えられる。質ということで映画作りの分析から記憶されている町での映画という形で印象性を高める要因を探ることがまず考えられる。その印象の発信事例も群にしていくことができる。表 3 はニューメディアの登場の中でインターネットの利用がされたが distrust な状況がメール、html に発生したと認知した。映画、テレビ、ラジオなどのメディアとインターネットの html、ppt、pdf を突き合わせ場所を生かし distrust 状況を破るコンテンツ制作を展望したものである。表 4 はコンテンツ制作における実際の技法について実績利用から将来を見通したものである。

HP 作りの技術変化：HTML コンテンツ作りに dos プロンプトの頃のメッセージ発信、写真の jpg 化による html 掲載、HP ビルダーの利用による html 作りと変化があり、現在 HP 改ざんの被害が出る状況になった。信頼を失わないコンテンツ作りの体制整備が必要になる

刺激発生	通信・ニュース	調査・行動	メディア・コンテンツ
2000年、学会での「錯視視」発生原因のコラボレーション発生	検証のための「心理学者の見かけ」事例、手紙	人名事典の個人情報、福井の教育、旧制高校について聞く	2013年、論文に「錯視視」事態記述、錯視研究者と質疑
2000年 戸川隼人、デジタルアートに江戸文化感情想起	戸川残花、島崎藤村記述のEssayの所在確認	検索 キーワード コンテンツ戸川秋骨	金沢、徳田秋声記念館へ通読探索、野口富士男の秋声関係地図
2008年時代確認 1977年の再認、企業教育、電話と注意、宮井和子	宮井と食事の「藪そば」火事小説家に原稿取りの時期あり	「藪そば」聞き込み想起 小説家の関連記述にないか検索	コンテンツ制作スライドショー 聞くことは内密状況
2013年名古屋工業大学國藤進ワークショップ、「融然の探検」講義	川喜多二郎 洋上大学ウィキペディアの誤り	大学紛争のトラウマ 昭和46年KJ法体験の場の再認	KJ法評価 教育での実践事例のpdf化
2005年イランの宗教研究発表 2012年日本での宗教心理学事典	東日本大地震、東北大学の心理学の流れの考え方 HP検索	高雄神護寺、高山 福井永平寺	加藤博己「仏教心理学キーワード」事典、心理学者人名検索
2011年東尋坊三好達治歌碑で能登の歌碑想起	歌碑の場所、各所めぐり	図書館、三好達治歌集 記録の確認	三好NHK出演のビデオ探し 角川源義木首路での俳句 HP
富山大全国大会で会った人の再認	メール利用に不信で発信なし メールアドレス不明	人名検索をしない状況（アドレスに関する不審メール発生）	メディア化しない自然環境での在在、人間交流尊重で不可

表3：情報利用における distrust なモデル

分野	発表場所	専門知識、技術の普遍化の場、評価事例	応用、コンテンツ作成、html
映画	GN研究会	Photo imagination and record description	スライド、シナリオの作成、メディア化
アニメーション	London IV	江戸文化の現在での visualization	戸川隼人アート（数理科学表紙）の動的化
幽玄の美	Amsterdam WWW9	古代の精神、源平の史跡のコンテンツ	南米
小説想起アート	London IV	清張「北の詩人」についての李文鎬考察	和田春樹「アジアとの和解」組立、新潟 html
IV 2000, 2002	London IV	2008年状況、恐慌時の軍事事態の可視化	株価下げの可視化劇、scene record, scenario

表4：スライドショー構成のヒント、実際

IV-Information Visualization

6.3 海外でのコンテンツ活用、海外からのコンテンツ発生

岩手県立大学において情報処理学会の全国大会、GN研究会があり岩手マルチメディア研究会とのMLを通しての交流でいくつかのデジタル作品を活用できた。考察してきたようにコンテンツをインターネット上に公開した場合のスライドショーであっても映画、テレビの劇のようにシナリオが必要で現実に見て居る場面のいくつかをmergeして構成していくことによりパソコン画面の向こう側にある現実を理解してもらえらる仕組みが作れる。さらにイメージーションの現実場面におけるシーン記憶への置き換えに発展させることができる。CG、モーフィングなどの映画手法の応用、アニメーション化などがすぐ思いつかれそれらは岩手にあった。

7. 結論

7.1 金沢向けコンテンツ作成を目指して

①distrust な検索状況、メール利用において論文考察で検索の発生する頻度は減り「東日本大震災」、「サイバー攻撃」についてそれぞれ8万字書いても人名検索は検索したhtmlへの信用度の発生で止まる。html上の言葉、写真、体裁に反応している。記述において検索は余分な確認をまた生む。

②野口富士男は長期にわたる徳田秋声の研究をして著作を出して末尾に調査当時の金沢の地図がある。観光ガイドから知る情報と文学碑の場所等野口の記述で金沢を回ると違う記憶想起、感情

が出てくると思う。調査の事例の「水戸天狗党」の金沢での関連事項の発掘になると考えられる。松本には「熱球讃歌」の松本の人があり末尾の電話番号に電話すると父の知己であるがそこへ行くと著者の家はないという体験をした。甲子園での松商学園慶応高の試合を見たがオウムサリン事件を越えていく松本の人を観客に感じた。こうしたことが松本コンテンツ html になると考える。

④人名検索する徳田秋声等について以前別の会合で話題にしている場合 html のコンテンツで会合記録とか関心を将来に引き起こしそうなことは記述を載せる必要がある。html の小文に必要な場合リンク処理でいかず手間がかかる。町というものを主題にして制作した html は岡山、静岡等で金沢という町でコンテンツ、html を考えた場合、別のコンテンツで出た石川県に關係する人が構成に出てくる。この場合にも html 発信への信頼性が出てくる。

⑤インターネットからの発信で利用プロバイダーの信頼性が重要になる。幾つかプロバイダーを利用、それぞれに html コンテンツがある。プロバイダーへの評価で Nifty についてドイツで遅いからこちらだと別のプロバイダーを言われた。早さでの評価は Google について韓国のサムソンで働いた方が遅いから韓国では韓国の検索エンジンを使っていると講演で言われた。Commufa でウィルス侵入で html が削除されても Google は検索結果を危険サイト警告付きの表示を出していた。被害はプロバイダーの企業イメージ損傷に拡がる。こうしたプロバイダー、検索エンジン評価でドイツでとか、金沢大学で学ばれた人という記憶が残る。Security の記述 html はそこから始まる面がある。個人利用のプロバイダー、検索エンジンは大きな企業が運営しているからである。

⑥心理学の分野で労働現場調査をした狩野広之（静岡、三高、東大）は event 調査から入る考えを示したが、金沢のコンテンツを作る時に水戸天狗党、徳田秋声、また相撲のご当所力士輪島、出島、遠藤のコンテンツ作りから古く江戸時代にさかのぼる相撲由来を調べる調査、検索をするのも distrust 状況のインターネットをより有益にしていく方法になる筋道と考える。

7.2 調査コンテンツ作りのための技術的方策

イラスト作り、素材調達：イラストを作ることは個人の技術で誰にもすぐできることではない。「学生歩く」の絵は福村晃夫から得てポスター発表のカラーズで活用した。こうした素材に会う機会は少ない、発信 html でイラスト、絵を利用した頻度は少ない。

自己制作の絵はなく写真は JPG、史料的なものはスキャナーで入れた。html 発信 20 年で発信イラスト、漫画、写真の人文科学的、芸術的評価が生まれその評価で html 掲載の継続が吟味される。

feedback loop：徳田秋声の人生を克明に調査した野口富士男は徳田の住んでいた地名「南坂」を調べ「菊坂」の間違いでその坂はどこか判明する。それまでに何人かの手紙が発生して。本論文の調査事項も人名からの検索、検索コンテンツ提供刺激のためのコンテンツ作りという情報交換システムの実施以外の思いもよぬ情報、事実が発生することも考えられる。そのためにコラボレーション・ユニット (collaboration unit) を pdf 体裁で用意した。状況と技術変化の説明 (XP) で MS 日本は韓国銀行混乱は北朝鮮の示威といい、韓国で Google は使われていない見聞とプロバイダーにおける Google による被害の発生の背景分析がある。状況と文学は松本清張「ゼロの焦点」の能登での舞台設定を思い出させ現在のコンテンツ作りで裏日本から近い北朝鮮ということで松本の「北の詩人」からのデジタルコンテンツ化を思う。

教育：すでに発信された教育 html がある。その活用を html 更新で対応する。観光ガイドのパソコンの usability、古地図（岐阜県立図書館所蔵）の現在での提示システムの考案でモビリティの質は上がる。大学が身近にある環境で大学でのパソコン利用を岐阜県出身の私が坂下町で近くの家から出た文化功労者末松安晴に IEEE 東京支部で頼んだこともある。

7.3 情報処理の蓄積技術の活用

Negative な動向判断でインターネット利用からの現在の金沢、広く裏日本に関するコンテンツ作りについて考察した。調査の事実について水戸天狗党についても水戸での諸生派との争いがある。秋田の人で幕末の戦争で会津と鹿児島との交流が今もないという人がいた。池袋で勝栗を買うという巨人ファンであった。池袋で勝栗が見つからないとどうしてかと思う。人の消息、人名事典でなく知りたい事実の発生に情報処理の技術は掘り起こしていけば活用できる蓄積が研究者のリサーチメモにあると思う。

謝辞：

コンテンツ提供の方、学会での JPG 質疑の方等に感謝します。

HP Note

<http://www2.u-netsurf.ne.jp/~wisdom/Acknowledgement2013.html>